

製品名: PRKAR2B ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87824**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:46 kDa; Observed MW:46 kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKAR2B
別名	PRKAR2; RII-BETA
遺伝子 ID	5577, 19088, 24679
SwissProt ID	P31323, P31324, P12369
免疫原	ヒト PRKAR2B の合成ペプチド

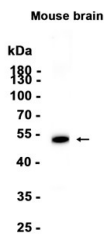
背景

cAMPは、様々な細胞機能にとって重要なシグナル伝達分子です。cAMPは、cAMP依存性タンパク質キナーゼを活性化することで

その効果を発揮し、このキナーゼは様々な標的タンパク質のリン酸化を介してシグナルを伝達します。不活性型キナーゼのホロ酵素は、2つの調節サブユニットと2つの触媒サブユニットからなる四量体です。cAMPは、不活性型ホロ酵素を、4つのcAMPと2つの遊離単量体触媒サブユニットに結合した調節サブユニットの二量体へと解離させます。ヒトでは、4つの異なる調節サブユニットと3つの触媒サブユニットが同定されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、調節サブユニットの1つです。このサブユニットは、活性化触媒サブユニットによってリン酸化されます。このサブユニットは、活性化T細胞においてcAMP応答配列結合タンパク質1 (CREB1) と相互作用し、その転写活性を抑制することが示されています。マウスを用いたノックアウト研究では、このサブユニットがエネルギーバランスと肥満の調節において重要な役割を果たす可能性が示唆されています。研究では、このサブユニットがハロペリドールによって誘発される遺伝子誘導およびカタレプシー行動を媒介する可能性があることも示唆されている。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

画像データ



PRKAR2B ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。